資料２

令和８年　月　日

厚木市長　山　口　貴　裕　様

厚木市スポーツ推進審議会
会長　小　泉　　綾

第３次厚木市スポーツ推進計画～スポーツの聖地あつぎを目指して～素案について（答申）

令和８年９月 29 日付けで諮問のありました第３次厚木市スポーツ推進計画～スポーツの聖地あつぎを目指して～素案について、慎重かつ活発な議論を重ね、本審議会の意見を取りまとめましたので、別紙のとおり答申いたします。

答　申（案）

令和３年度から令和８年度までの６年間を計画期間とする、第２次厚木市スポーツ推進計画では、「スポーツで心がふれあう都市（まち）あつぎ～スポーツ王国を目指して～」を基本理念とし、スポーツを通じて強い絆で結ばれたまちの実現に向けた取組を着実に進めている。

この間、スポーツを取り巻く情勢は大きく変化しており、令和７年９月にはスポーツ基本法が改正され、スポーツによる地域活性化、地方創生といった視点が新たに付け加えられるなど、スポーツは単に心身の健康や人との交流を生むものだけではなく、地域課題の解決に大きく寄与するものであるという側面が重要視されている。厚木市でも将来的な人口減少、少子高齢化による、スポーツ活動の担い手不足などの懸念がある中で、スポーツによる地方創生を図っていくためには、スポーツに関わるすべての人がスポーツの持つ価値を享受できる環境づくりにより、スポーツによる人の流れとまちのにぎわいが創出され、市民をはじめとする多くの人から憧れを抱かれるようなまちづくり、すなわち「スポーツの聖地」を目指した取組が必要である。令和８年３月に策定された、ハード面における「スポーツの聖地」に向けた取組の方向性を示す、「厚木市スポーツの聖地づくり基本計画」と一体になって、ハード面、ソフト面の両面から「スポーツの聖地」を目指した施策を展開されたい。

示された計画策定の案は、第２次厚木市スポーツ推進計画で進めてきた施策の方向性を踏まえつつ、昨今の社会状況やスポーツを取り巻く状況の変化、運動・スポーツに関する意向調査等、様々な角度から課題や問題点を抽出した中で、「スポーツの聖地」を目指すうえで厚木市が推進していくべき施策の方向性が示されており、その結果、本審議会としては、第３次厚木市スポーツ推進計画～スポーツの聖地あつぎを目指して～について、おおむね妥当なものと判断した。

今後の計画の策定に当たっては、次の点に留意いただくとともに、今後実施される予定のパブリックコメントの意見を踏まえ、市民の声を反映させた計画となるよう努められたい。またあわせて、本答申で示した意見及び本答申に示していない本審議会での審議過程における意見及び要望等については、今後の施策検討の際にその趣旨を可能な限り尊重されたい。

厚木市における、スポーツを通じて市民をはじめとする多くの人から憧れを抱かれるようなまちづくり、すなわち「スポーツの聖地」の実現に向けて、市民や関係団体との丁寧な対話を重ねながら、理念である「スポーツでいつまでも愛される都市（まち）あつぎ～スポーツの聖地あつぎを目指して～」を着実に推進されることを強く要望し、答申とする。

１　全体に関する留意点

計画期間が９年と長期にわたることから、９年後の目指すべきビジョンを明確にしたうえで、必要な施策を講じるとともに、スポーツ基本法及びスポーツ基本計画の趣旨に沿うものとなるよう取り組まれたい。併せて市全体のまちづくりの方向性を示す、第11次厚木市総合計画において掲げる理念や目標等が達成されるよう、計画を推進されたい。なお、目標の達成状況等を踏まえ、現行の施策の定期的な見直しを行うとともに、従来の施策にとらわれず、社会情勢やスポーツを取り巻く環境の変化、市民ニーズ等を踏まえ、目標の達成に必要な施策を積極的に検討、実施し、計画の実効性を確保されたい。

２　計画の基本目標について

基本目標の確実な達成に向けて、こまめに進捗状況を確認し、必要な施策を展開されたい。

計画に掲げる成果指標については、達成状況を定期的に検証するとともに、ＰＤＣＡサイクルに基づく進行管理を徹底されたい。

３　スポーツ推進施策の総合的展開について

（1）スポーツの持つ価値を多くの人に享受してもらうためには、誰もが気軽にスポーツに親しめる環境が不可欠である。住んでいる地域で身近にスポーツに触れられる機会を増やすなど、誰もがスポーツ活動に参加しやすい環境づくりを推進されたい。

（2）スポーツを通じた共生社会の実現に向けて、障がい福祉所管課等と連携を図りながら、障がいへの理解の促進と障がい児・者とその家族が安心してスポーツ活動に参加できる取組を推進し、障がいの有無に関わらずスポーツに親しめる環境づくりを展開されたい。

（3）幼少期より運動やスポーツを気軽に楽しめる環境は、こどもたちの心身の成長や社会性の向上に大きく寄与するものである。地域コミュニティの希薄化や外遊びの機会減少等が懸念される中で、こどもたちが気兼ねなく自由に運動やスポーツを親しめる取組を推進されたい。

（4）中学校における運動部活動は技術の向上だけに資するものではなく、生徒の心身の成長や自主的な学びの場としての側面があり、運動の得意不得意等に関係なく、誰もが主体性をもって、自由にスポーツに触れることができる機会の一つである。部活動の地域展開にあたっては、こうした部活動の持つ意義を理解しつつ、地域スポーツ関連団体等と協力しながら、こどもたちが継続的にスポーツに親しめる環境づくりに取り組まれたい。

（5）指導者の育成にあたっては、現在活動している指導者への支援や資質向上も求められる一方で、指導の担い手不足が課題となる中、各スポーツ団体等で発行している指導者ライセンスの取得促進など、地域における指導者を増やす取組を推進されたい。

（6）ボランティアへの参加に消極的な市民が多い理由の一つとして、対象の競技について精通していないなど、ハードルの高さを感じてしまう点が挙げられる。するスポーツ及びみるスポーツの関連施策と連携を図りながら、支えるスポーツの「楽しさ」をＰＲする取組を推進されたい。

（7）様々な規模の試合や大会等の開催が可能となるスポーツ施設の整備を検討するとともに、市にゆかりのあるプロスポーツチーム等による試合の誘致促進など、みるスポーツ機会の拡充を通じて、まちの経済活性化や交流人口の拡大につなげていく取組を推進されたい。

第３次厚木市スポーツ推進計画～スポーツの聖地あつぎを目指して～（素案）について
意見一覧

No.	意見内容	意見反映箇所 ―――――――――― 御意見に対する回答
1	①P17上段　　～第２次計画での目標値である180万人には達していないものの、年々増加しています。 →前段にコロナ渦の影響で減少したといっているので、“年々増加”でしょうが、“年々回復傾向にあります。”の表現の仕方の方がいいのかなと思いますが。 ②P22　■するスポーツに係る状況について ・７行目　「プロスポーツチームの試合」など大規模なスポーツイベントを希望している人が多くなっています。 →アンケート結果を分析して“する”に対しての記されている中で、“みるスポーツ”に係る文言がでてきているのに少し違和感を覚えました。 ③P23　■スポーツの聖地づくりに向けて ・厚木市が～取り組みについては「スポーツ施設の整備」と「誰もが気軽に参加できるイベントの開催」の順であるが、「誰もが～」と「スポーツ施設～」の順番になる方が、趣旨としてはいいのではないでしょうか。 ④P29　■体力・運動能力について ・全国及び県平均を下回っているものの、～昨年度の数値を上回る結果となりました。 →比較対象が市内結果のみであれば、いいのかなと思いますが、上位団体の平均を下回ったのに対しての見解がないのはどうかな？と思いました。具体的な方策はないとしても、平均を下回ったことに何かしら説明などがあった方がよいかなと思いますが。 ⑤P40 (2)こどものスポーツ活動の推進 →地域スポーツ団体連携、地域展開を進めます。という内容は承知していますが、中学校の部活動で所謂上手でない子供も部活動をすることでスポーツに関わってきたことの表現の仕方も少しあった方がよいかと感じました。（スポーツクラブ主導はどうしてもうまい子が前提にあるので、それだけでいいのかなと） ⑥P47 指導者の育成・活用 →施策の概要に、スポーツ推進委員/地区振興委員はあるが、スポーツ各団体で発行している指導者ライセンスについての取得推進みたいな方策は示す必要はないのかしら。 ⑦P48　(3)スポーツボランティアの育成・活用 →昼間人口の多いなかでの企業のかかわり方に期待するような文言はなくてよいか。P49で触れているのでその中に含まれた考えなのかな。最終的にはP54でまとめた表現です。となりますかね。	p2～3「３　スポーツ推進施策の総合的展開について」（４）（５）に反映。 ―――――――――― ・①②③⑤について 文言や記載表現を見直します。 ⑤については、部活動が技術向上だけではなく、生徒の主体的な学びの場であること、運動の得意不得意に関わらずこどもたちがスポーツを自由に楽しめる環境づくりが必要である旨を計画内に追記します。 ・④について 第２次計画での記載方法に沿う形で県や国の平均値も掲載しています。主に市の結果を比較する形に文言を見直します。 ・⑦について 施策の方向性「スポーツ関係団体等の支援・育成及び連携・協働」に含めて記載しています。
2	色々なアンケートなどで細かく分かりやすく作成されていました。 本格的に行われている個人・団体は別にして、スポーツ（体を動かす）に触れられる機会を増やすことが重要かと思います。 まずは自治体、公民館レベルから、自転車でも行ける距離で月１回程度、行事が行われたらと思います。	p1・３段落目、p2「３　スポーツ推進施策の総合的展開について」（１）に反映。
3	・【目標１】（４）障がい者スポーツ活動／（６）スポーツによる交流の推進 障がい者スポーツへの理解に加え、障がいの特性や必要な配慮への理解を深める活動も必要だと感じます。当事者・家族の声を聞く機会や研修を設け、障がい児・者と家族が安心して参加できる環境を整えることで、スポーツによる交流の推進につながると考えます。 ・【目標２】（１）スポーツを通じたまちのにぎわいの創出 湘南ベルマーレが専用スタジアムの建設に向け、平塚市以外での建設も視野に入れているとの記事を拝見しました。具体的な進捗は把握していませんが、ホームタウンである厚木市への誘致を検討してはどうでしょうか。市民のスポーツへの関心やまちの盛り上がりを高め、経済効果も期待できると考えます。各都市でJリーグの開催による経済効果があり、近年では岡山や長崎などが新たな盛り上がりを見せています。岡山では年間54億円、長崎では複合施設と２クラブで年間378.3億円の経済波及効果が試算されています。建設・維持費、交通、官民の負担、市内への波及を独自に検証し、交流人口の拡大や地域消費につなげることを提案します。	p2～3「３　スポーツ推進施策の総合的展開について」（２）（７）に反映。
4	・訂正p15「やるきっかけや機械があれば」の機械→機会 ・あくまでも私見ですが、「スポーツの聖地」を目指すなら、こどもたちがスポーツに親しむための施設が近くにあり、いつでも活動できるようにしたい。こどもたちがスポーツを好きになり、生涯にわたり、やる、観る、支える相手になることが必要になるのではないだろうか。プロの試合や大きな大会を観るだけでは、やる、支えるに必ずしもつながらないのではないでしょうか。	p2「３　スポーツ推進施策の総合的展開について」（３）に反映。 ―――――――――― 訂正p15「やるきっかけや機械があれば」について「機会」に修正します。
5	①市の計画期間が2027～2035年度の9年間としたのはなぜですか。 ※国は５年計画　2027～2031年度「第４期計画」 ※県（神奈川県スポーツ推進計画）15年計画　～2040年度を目標 ②9年間のイメージ（ゴール）がもしあればどんなものか（市の様子、満足度の指標とか）。	p2「１　全体に関する留意点」に反映 ―――――――――― ・第３次計画は第11次厚木市総合計画に示す目標を実現するための具体的な取組等を定めた個別計画となるため、第11次厚木市総合計画の終期にあわせ９年間としています。 ・第３次計画は「スポーツの聖地」をゴールとしており、こどもから大人まで、障がいの有無やスポーツの得意不得意等に関わらず、誰もが自由に楽しくスポーツに触れることができる環境づくりにより、スポーツによる人の流れとまちのにぎわいが創出され、市民をはじめとする多くの人から憧れ抱かれるようなまちを目指しています。「スポーツの聖地」の先に、第11次総合計画で掲げる「共創のまち」があり、第11次総合計画で示す理念や目標が達成されるよう、本計画を推進します。
6	・p19～22、p48について 「支えるスポーツ」への関わりを希望する人が少ないですが、「そのスポーツに詳しいわけではないので」等、一種の「ハードルの高さ」を感じている人もいるのではないでしょうか。「見るスポーツ」「するスポーツ」と連携しつつ、別角度、あるいは一歩踏み込んだ「楽しさ」があることを前面に出したPR方法を考えてもいいと思います。	p3「３　スポーツ推進施策の総合的展開について」（６）に反映。